

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第3回こども部会				
(2) 開催日時	平成30年7月6日（金）9：30～11：30				
(3) 開催場所	本庁舎 902 会議室				
(4) 出席した委員、事務局等	委 員 <敬称略>				
	宮崎 渉	今岡 久美子	藤野 絵里子	志村 陽子	谷村 淳子
	福田 功志	宮嶋 祐紀子	吉田 紀代美	小池 優子	島村 勝
	stack 洋子	小野 英次郎	大岩 香代子	馬場 衣久美	
	区職員				
	小鳥 彰子	本多 あゆみ	新屋 敬子	大島 涼	田島 吉延
	事務局：小林 善紀、森崎 恵里、滝本 裕弥、				
	欠席者：石川 智春、野澤 景子、佐藤 渉、秋山 亮、林 俊子、関 香穂利				
(5) 内容・要旨	<p>1 部会長挨拶</p> <p>2 連絡・報告事項</p> <p>(1) 各委員からの情報提供</p> <p>① 運営会議の報告</p> <p>合同部会の日程が9月4日の10時～12時に決まった。内容は検討中だが、それぞれの委員が繋がるためにワークショップのような企画も検討している。</p> <p>就労支援部会からも合同部会の提案があった。18歳以降のつながりについて、どのように「繋ぐ」ことが本人への良い支援となるか考えていきたい。</p> <p>また、防災部会としては、児童発達支援地域ネットワークにてアンケート等も検討している。</p> <p>② 児童発達支援地域ネットワーク会議</p> <p>12月にこども部会と連携した学習会をすることを提案してきた。放課後等デイサービスは指定から6年で更新を迎える。法改正当初に指定を受けた事業所は、今年度更新を迎えることになる。</p> <p>大田区として、事業所の質や支援者の質を向上するためのネットワーク会議になるように進めていくため、各事業所と意見交換できる内容にしていきたい。</p> <p>③ 城南特別支援学校わくわくじょうなんより</p> <p>7月14日にやきそばBBQ大会を企画している。現時点で児童約44名、全員で114名の方から申し込みがある。参加希望の方は、事前に福田委員に申し込みが必要。</p> <p>④ おおたTSネットより</p> <p>児童虐待について、取材をしているルポライターの方を講師に呼ん</p>				

で、拡大定例会を予定している。9月29日（土）に実施する。

6月の定例会では東京ストリートカウントという活動をしている学生を招き、話を聞いた。路上生活者の実態について、夜に東京の街を歩き実態を調査する活動となる。今年も8月に実施する。

⑤ 児童虐待について

目黒区で起きた、児童虐待についての新聞記事を紹介。教育虐待という「しつけ」として虐待されている実態について、こども部会でも、今後取上げていく必要性を感じた。「しつけ」とは何かということを検討していけると良い。

要保護児童対策地域協議会という会議を行っており、児童相談所や子ども家庭支援センターの方の話聞く機会がある。児童相談所も「増える虐待」の対応が追いつかない実態や、支援者のメンタルケアの必要性についても課題との話があった。家庭環境も複雑・多様化され、子育ての環境も脆弱になっている。かつ、こどもを取り巻く課題もSNS等の普及で、トラブルが多く、対応が難しくなっている現状もある。

区民の立場として、町会の役員会などでも、目黒区の児童虐待については、議題にあがった。その中で、育てづらさのあるこどもについての話があった。

しかし、区民の方には自立支援協議会の存在や障がい者総合サポートセンターの存在をあまり知られていない。そうした意味でも自立支援協議会の公開性や、会議の成果を地域に還元・アピールする方法を考えていけると良い。

(2) 事務局からの事務連絡

① 就労アセスメント説明会（6/26）の報告

卒業後、すぐに就労継続支援 B 型事業所に通う方は就労移行支援事業所等による就労アセスメントを受けなければいけないことになっている。その趣旨説明とアセスメントの進め方の説明を行った。アセスメントを実施する区内就労移行支援事業所の支援員も参加し、合計53名の参加があった。

② 合同部会について

今後、合同部会の開催通知や申し込みの連絡を行うことになる。可能であれば、一人でも多くの委員の方に参加いただき、5部会の風通しをよくするため合同部会で発言して欲しい。

3 本日の検討事項

(1) 障がい施策推進プランについて

① 前期（27年度～29年度）障がい施策推進プランと発達障がい児・者

支援計画の進捗状況の確認と、プラン内の計画事業に関連する、こども部会の活動の成果について、確認した。

(2) 「かけはし」・「発達支援マップ」の活用について

① それぞれの成り立ちについて確認

「かけはし」の成り立ちについては、発達支援障害者支援法が成立し、平成24年度にこども家庭部に児童発達支援担当課長などが設置された。この時、庁内で発達障がいに関する担当部局がはじめて設置された。その際、部局を超えた会議にて、それぞれの部局で取り組んでいる施策を可視化する目的でガイドブックを作成した。

また、当時、発達障がい児・者支援計画の取り組みにおける、「ライフステージに応じた切れ目のない支援」の推進について検討していた。その過程で、わかばの家、学校、施設・就労支援センターなどの、ライフステージの変わり目において、その時々を利用する福祉サービスや教育の場面で、毎回同じようなことを聞かれることが多い現状があることが分かった。そのようなライフステージの変わり目において、本人の情報をスムーズに伝えるツールが必要ということから「かけはし」を作成した。

「かけはし」は中学生までは、親が記入することを想定しているが、高校生以上は本人が記入することも想定している。そのため、ネガティブな表現は極力使用しないよう心掛けて作成した。手をつなぐ育成会が発行している「つなぐ」も既にあったため、そちらを使用しても良いし、「かけはし」を活用しても良いという想定もあった。

「発達支援マップ」については、「切れ目のない支援」をこども部会で検討しているなかで、形ある成果物を残すことを意識した時に、マップの作成に至った。本人や親が、初めて相談機関に相談にいった際に、相談者と説明者が共有して相談を進めていくためのツールがあれば良いという考えから作成が始まった経過がある。

② 発達支援マップの活用に向けた事前点検

○「相談支援事業所」や「障がい者総合サポートセンターのピアカウンセリング」、「知的・身体障害者相談員」も記載されると良い。

○その都度、改訂していくということであれば、改訂年月日を記載できるようにする。

○書かれている内容は、不完全の内容もあり、現時点ではあくまでも支援者・説明者が説明の為に活用する想定がある。そのため、まだ相談者への配布ができる段階ではない。配布してしまうとマップが一人歩きする危険がある。

○発達支援応援フェアで使用する予定。

○各委員が所属している機関で活用できそうであれば、事務局を通じて配布し、活用していく。

(3) その他

① 10月・11月のこども部会での事例検討について

10月の事例検討は、「移動支援」を切り口に、本人を取り巻く家族・支援者の連携について行う予定であるが、部会で事例検討を行う目的や主旨を明確に決めておく必要がある。

11月については、重症心身障がい児・医療的ケア児について知る機会として、学習会を企画していくこととなり、企画を進めるための委員が選出された。

3 次回日程

平成30年9月14日（金） 9時30分～11時30分

場所 本庁舎901会議室